

求められる「バラバラでいっしょ」の世界

第16組 養瑞寺住職 水野純明

私は、現在、前住職が元気でいてくれることもあり、中学校の教員をしております。私の勤務させていただいている自治体は、外国籍人口が一割を越えております。当然、本校にも外国籍生徒は多くはブラジルですが、多数在籍しており、日本語を話せる生徒、片言の生徒、ほとんど理解できない生徒など経済状況も含めてその様相は様々です。

その子どもたちは、遠い地球の裏側から一体どんな思いでやってきたのでしょうか。日本語のたどたどしいある生徒は、国語や社会の授業に耐えきれず、浮遊することがあります。その生徒に「この先、どんな人になりたい？」と尋ねると、「やさしい不良になりたい」と答えました。この”やさしい“という言葉の中にある思いはどんなことなのでしょう。私には「自分にだって、心の温かい人として、意義ある人生をおくる権利はあるのだ」という叫びに聞こえてしかたがないのです。

阿弥陀経の中に「黄・赤・白それぞれの色それぞれに輝く」の言葉があります。阿弥陀如来の本願力は、世界中の遍く人々一人一人に照らされるものであり、人種、民族等も超えたものであるはずです。

ところが、私たちの接し方はどうでしょう。どこかに偏見を断ち切れず、共に生きようとする気持ちが足りない現実がある気がします。私の同僚は、毎日の彼らの掃除時間の指導を片言のポルトガル語で声をかけ、認め励ましています。彼らは何とも言えない笑顔を見せます。こちらの側から歩みよろうとするその同僚の姿に私は学ばせてもらいました。

多文化共生の時代、まさに蓮如上人五百回御遠忌のテーマであった「バラバラでいっしょー差異（ちがひ）をみとめる世界の発見ー」が私たちを問い、行動することを求めていることを実感せずにはられません。